

個々に合わせた指導でチャレンジ精神・自主性・行動力を伸ばす

幸和グループ (秋田県能代市)

■社員の力が新たな事業展開を支える

秋田県能代市の幸和グループは、幸和機械株式会社と幸和リース株式会社の2社から成り、建設関連を中心とした各種機械・重機のリースや保守、および、中古機械の販売を行っている。県北地域および秋田市を中心に事業を展開しているほか、中国やフィリピン、ベトナムなど海外に向けた中古機械販売も行っている。社員は総勢91名。会社の礎を築いた現会長 福田幸夫氏と二代目を担う代表取締役 福田幸一氏の両氏が社員一人一人、また、各営業所・各部署に目を配り、社員の自主性を伸ばし、やる気を尊重する教育を実践している。



代表取締役 福田幸一氏

今回は幸和機械株式会社本社を訪ね、福田会長、福田社長の両氏に、グループの事業展開を力強く支える社員の育成方法や、個々の力を引き出す職場づくりなどについてお話をうかがった。

■地域のお客さまに良いものを届けたい

当グループの歴史は、1971（昭和46）年、福田会長が建設資材を販売する個人会社「幸和機械」を開設したことに始まる。当時能代市では建設資材が高値で取引されており、「少しでも安く地元のお客さまに届けたい。適正価格で提供したい」との思いがあったことが設立への原動力となったという。サラリーマン時代の人脈を生かして目標としていた適正価格での販売を実現させたところ、地域のお客さまには大変喜ばれたという。その後中古機械の販売やリースなどにも業容を拡大していくこととなるが、「お客さまに良いものを」という姿勢は今に至るまで一貫して変わらない。当社では「郷土の繁栄に貢献する」との社訓のもと、社員全員が地域のお客さまの仕事の効率化や収益アップにつながるような機械

設備・サービスの提供を目指し、日々業務にあっている。

■社員が安心して働ける環境づくり

福田社長は、「縁あって当社に来てくれた方々をどうやって定着させ育成していくか。これは経営者にとって重要な課題の一つである」との考えから、社員が働きやすい環境づくりに取り組んでいる。



取締役会長 福田幸夫氏

地域の採用環境は厳しく、なかなか新卒採用が確保できないなか、当社では中途採用の社員が数多く活躍している。福田社長はこれまでの採用活動を通して「中途採用で地元就職を希望する人の多くが異動・転勤の有無や、ノルマの有無を気にしている」ことを知り、「地元で就職を希望する人の心情を理解して、社員にそうした負担を負わせられないような体制をとっている」という。実際当社では転勤がなく、ほとんどの社員が自宅通勤で勤務しているほか、営業店や担当者に割り振る営業ノルマは一切ない。

また、現在取り組み中のものとして、社員のライフスタイルの充実に配慮した短期休暇制度の導入や、定年退職後の再雇用において処遇差がないような仕組みづくりについて検討を進めている。

■個々に合わせた教育を実践

当社では、マニュアルを用いての社員教育を行っていない。それは、「社員を育てる上で大事なものは教育ではなく、いかに覚えてもらうかということ。育成マニュアルを作ったところで押し付けになる。社員によっては当てはまらない場合もある。何よりも大切なのは社員の努力を後押しすること」という両氏の考えがあるからだ。当社では、マニュアルによる教育ではなく、個別案件への対応の中で、技術や

ノウハウ、業務にあたる上での考え方、当社の方針などを伝えることにより社員を育てている。

また、採用にあたっては「知識経験は重視しない」のだという。「会社に入ってから本人がやりたい業務を見つけてもいいだろうし、こちらとしても本人にどういった業務が向いているかは分からない」からだ。「個々の社員の努力を後押しして育てる」という教育方法が定着している当社においては、知識経験がないことは大きな問題ではないのだ。

■社員のチャレンジが事業継続の要

当社が事業を継続していく上では、一級および二級整備士の資格が欠かせない。「かつては少ない整備士が必死になって一年中点検業務にあっていた」というが、今では有資格者が増え、業務も分散できるようになり、アフターサービスなど点検以外の業務にも力を入れられるようになったのだという。資格取得にあたっては、資格を取得したいという意欲のある社員に対して、受験回数に上限を設けることなく、講習会への派遣から講習会・受験費用まで、すべて会社側でバックアップしている。福田社長は「仕事をしながら資格取得に挑戦するというのは本当に大変なこと。それでも会社にとって必要なものであるため、社員に付託し、チャレンジしていただいている。社員が挑戦してくれる限り、会社は応援し続ける」と語り、仕事と資格取得の両立の難しさへの理解と、資格取得に挑戦してくれる社員への感謝を表した。



本社前の敷地にリースや販売用の車両・重機が並ぶ

■社員の自主性を養う

当社では中古機械に対して塗装加工を行っているが、これは社員の発案によるものだという。「機械というのは機能や性能が重要であり、外観はあまり気にすることなく扱ってきた。海外のお客さまには問題はなかったが、地域のお客さまの印象はあまりよくなかった」といい、こうした状況に気付いた社員たちが、お客さまのニーズを満たすため、自ら必要

な設備の洗い出しから工場のレイアウトまですべて練り上げ、塗装加工を行うことを上申した。福田社長は「自分たちの発案で始めたことであり、社員たちは責任感をもって一生懸命取り組んでくれている。扱い台数は増え、技術も向上している」と語る。当社では、お客さまのニーズを満たすという認識が社員に浸透しているとともに、そのために何をすべきかを考え実行に移す自主性と行動力が養われる土壌ができています。

■社員総活躍会社を目指して

取材の最後に「求める社員像」をうかがったところ、福田社長は「家庭・家族を大事にする人であってほしい。家庭・家族の幸せのためにどうすればよいかを考える社員が増えれば、当社はずっと良くなるはずだ」と語った。社員の幸せは働く意欲となり、意欲的に働く社員の力は会社の発展につながる。これは福田社長の実感からでた言葉である。

当社では、現在の社員数91人にかけて「91人総活躍会社」を目指しているという。家庭第一の社員を良しとし、その希望やライフスタイルの充実に配慮した職場環境づくりを進めるとともに、戦力である社員に感謝し、個々に合わせた教育を実践する当社においては、今後も社員の持つ力が十二分に引き出され、ますます力強い事業展開がなされていくものと感じられた。



本社社屋

(フィデア総合研究所 佐藤美里)

幸和グループ

代表取締役 福田 幸一
本社：秋田県能代市浅内字横道19-1
設立：1958（昭和46）年4月
業種：建設土木機械、資材等の販売
従業員数：91名
グループ会社：幸和機械株式会社
幸和リース株式会社